

事後評価結果（平成28年度）

担当課：岩手県県土整備部道路建設課
 担当課長名：遠藤 昭人

事業名	地域高規格道路 <small>みやこもりおか</small> 宮古盛岡横断道路 一般国道106号 <small>やながわ</small> 築川道路	事業区分	一般国道	事業主体	岩手県
起終点	自：岩手県盛岡市築川 至：岩手県盛岡市川目			延長	6.7 km

事業概要

一般国道106号は、沿岸部宮古市と内陸部盛岡市をつなぐ地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」に指定されており、広域的な交流・連携を支える幹線道路ネットワークを構築する骨格的な道路としての機能が求められている路線である。

一般国道106号築川道路は、幹線道路として安全で円滑な交通機能を確保するための、盛岡市築川から同市川目に至る延長6.7kmの2車線道路整備である。

事業の目的・必要性

当該区間は、現道が急峻な谷地形の河川沿いにあり、地形的制約により線形不良・幅員狭小であるため、交通事故が発生するとともに、落石等の危険区間でもあるなど、安全で円滑な交通の支障となっているほか、歩道が一部未整備であるため、歩行者等の安全が確保されていない。

築川道路は、線形不良・幅員狭小の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした事業である。

事業概要図

橋梁名	延長(m)	トンネル名	延長(m)
① 戸中橋	33	① 大升沢トンネル	263
② 川目橋	354	② 境鼻トンネル	138
③ 織沢橋	385	③ 水沢トンネル	411
④ 大升沢橋	315	④ 曾利田トンネル	194
⑤ 宇曾沢3号橋	108	合計	1,006
⑥ 宇曾沢2号橋	110		
⑦ 宇曾沢1号橋	142		
⑧ 築川大橋	264		
⑨ 落合橋	226		
⑩ 境鼻橋	59		
⑪ 天狗岩橋	39		
⑫ 水沢橋	97		
⑬ 曾利田2号橋	46		
⑭ 曾利田1号橋	38		
合計	2,216		

事業の 効果等	事業期間	事業化	平成8年度	用地着手	平成9年度	供用年	(当初) - / H19	変動	1.3倍
		都市計画決定	-	工事着手	平成10年度	(暫定/完成)	(実績) - / H24		
	事業費	再評価時	(名目値) - / 150億円	実績	(名目値) - / 149億円			変動	1.0倍
		(暫定/完成)	(実質値) - / 一億円	(暫定/完成)	(実質値) - / 一億円				
	交通量	計画時	(H17)	実績	(H27)			変動	107.5%
		(暫定/完成)	- / 5,345台/日	(暫定/完成)	- / 5,746台/日				
	旅行速度向上		49.9km/h → 63.8km/h	交通事故減少	3件/年 → 1.5件/年				
	(供用前現道→当該路線)		(供用前年次)H11年度 (供用後年次)H27年度	(供用前現道→供用後現道)	(H15-H24) (H25-H26)				

費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C 1. 1	総費用 : 182億円 事業費 : 179億円 維持管理費 : 3億円	総便益 : 205億円 走行時間短縮便益 : 149億円 走行経費減少便益 : 35億円 交通事故減少便益 : 21億円	基準年 : 平成22年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 1. 2	総費用 : 218億円 事業費 : 214億円 維持管理費 : 4億円	総便益 : 259億円 走行時間短縮便益 : 188億円 走行経費減少便益 : 44億円 交通事故減少便益 : 27億円	基準年 : 平成28年
事業遅延によるコスト増		費用増加額 : -	便益減少額 : -	
事業遅延の理由 ・特になし				
客観的評価指標に対応する事後評価項目 ・交通の隘路区間が解消され、通行車両の安全性・快適性が向上することにより、幹線道路として安全で円滑な交通機能を確認。 ・歩道の整備により、歩行者等の安全性が向上。 ・当該地域に計画されている築川ダム建設事業の付替道路事業等と併せて、地域高規格道路として効率的かつ効果的に整備し、交通の安全確保と円滑化を図る。 ・沿岸部と内陸部との交流・連携の強化により地域の活性化を支援。				
その他評価すべきと判断した項目 ・特になし				
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 【希少野生植物】 施工区域内の希少野生植物を生育に適した場所に移植。移植先における生育を確認済み。 【猛禽類】 猛禽類を刺激しないように、トンネル工事における防音扉の設置など騒音対策を実施。 現在もモニタリングを継続しており、周辺の猛禽類の繁殖を確認。 【小動物】 安全に道路を横断できるように、ボックスカルバートに小動物の移動路を確保。 小動物による移動路の利用を確認済み。			
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし			
事業評価監視委員会の意見 ・岩手県大規模事業評価委員会（平成28年9月15日）：継続して検討が必要な課題等はなし				
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ○宮古盛岡横断道路の整備状況（国土交通省施行） ・都南川目道路L=6.0kmのうち、川目IC～田の沢IC間のL=2.6kmが平成28年3月12日に開通済。 ・宮古箱石道路L=33.0km、平津戸松草道路L=7.0km、区界道路L=8.0kmが平成23年度に事業化。				
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・事業の目的に対する効果を発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。				
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の特段の見直しの必要性はない。				
その他特記事項 ・特になし				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。